

所在 (賀茂郡下河津村大字田中) 田中村

今按豆州志に八幡村木宮明神大見十六村の惣鎮守也相傳ふ式内杉梓別命也と正保二年の札に云貞和年藤原朝臣祐義公新に宮殿造立又云田中村來宮明神あり五十猛命を祀る或云杉梓別命也と川津十七村の惣鎮守也云々伴信友云この正保の札によるに貞和年中の新築にて田中村の來宮を遷せるなるべし式社考證にも田中村鎮座木野明神是也社記にほこわけの明神とみえて古老は然稱へたる由なるが神階帳に従四位上ほこわけの明神と有に符合すと云り故今之に従ふ

多<sup>タ</sup>祁<sup>チ</sup>富<sup>フ</sup>許<sup>コ</sup>都<sup>ト</sup>久<sup>ク</sup>和<sup>ワ</sup>氣<sup>キ</sup>命<sup>ノミコト</sup>神社 稱武峰山神社

祭神 多祁富許都久和氣命

今按神階帳にたけふこわけの明神とある即此神なり豆州志に此神社のことを今武峯權現と云古き上梁文字多く減す其中に伊豆國賀茂郡武山大權現者當初役行者勸請熊野三所大權現と永正十八年の札に稻澤本郷嶺之山安弟社權號熊野權現云々とあるによらば熊野神の如くなれど熊野神を多祁富許都久和氣命と云べき由古書に所見なければ從ひがたし

祭日

社格 (明細帳に武峯神社とあり祭神多祁富許都久和氣命)

所在 (賀茂郡濱崎村大字柿崎) 柿崎村山

今按式社考證に古くより此山を多祁大山と稱へたるはタケフコの稱の遺存れるにて多祁富許都久和氣命の鎮座地なること明けし山上に自古の窟と云有より古く御室と云稱有しと見えて隣里中村に御室と云小祠ありて是を多祁富許都久和氣命神社と云傳へ亦本郷村一岩山、半腹に武彦明神と云神ありて武峯山の神と同神なる由に傳たるは正説にて竹彦はたけふこの轉訛なること明白なれば此二社共に武峯山の神を遷祀れること論無く武峯山神の多祁富許都久和氣命なることも亦決定すべしと云る據ありて明ければ之に従へり

伊<sup>イ</sup>波<sup>ハ</sup>久<sup>ク</sup>良<sup>ラ</sup>和<sup>ワ</sup>氣<sup>キ</sup>命<sup>ノミコト</sup>神社 稱木宮

祭神 伊波久良和氣命

祭日

社格 郷社

所在 (田方郡中大見村大字八幡) 八幡野村

今按豆州志に八幡神祠極めて古祠也八幡野は未成村落一時の名也又八幡野村八幡宮木宮を配祀す本二社同也近年重修の時一祠兩扉とす伊豆八幡は上古の神にして本宮也木宮は古老相傳へて伊波久良和氣命と云古代着岸の時海濱の岩窟に祭る後此を八幡祠域に祀る今は却て八幡二宮と成れり兩神の祭式相混すれ共八幡の祭儀を用るに似たり云々とあるによりて式社考證にも伊波久良和氣命神

社は八幡野村木宮なるべし口碑に神名を傳へたるは更也往古海濱の岩窟内に鎮座せる由なるは正説にて伊波久良と稱へ奉れる原由と知られたりとも云り又子浦村八幡社を伊波久良和氣命神社也と云説あれど唯村中に石倉と云處あるのみにて社の有し證もなければ諸ひがたしと云り故今豆州志考證の説に従ふて八幡野村と定めつる也

意波與命神社

祭神 意波與命

祭日

社格 (明細帳に淺間神社とあり祭神意波與命)

所在 (賀茂郡稻生澤村大字本郷) 本郷村山

今按この社所在定かならず式社考證に賀茂郡本郷村一巖山上鎮座淺間ならむか其は神名の意波與は巖に因ある稱號と聞ゆるに此山は名にし負一巖山にして突兀立形勝他に異りて能神號に適ひ淺間の稱も姫神に坐より祀たるにて緣由有を以て知べし又同郡岩殿村白山社ならむか此社は豆志に波次磯山岩殿中の白山權現亦山下の熊野權現極めて古社也云々と記せる如く神名の意波與は岩寄の意にて此社の岩壁の嵌空に片寄て立たるに適へり又池村に淺間社には非じかと思はるれど此邊古く賀茂田方二郡接界の地にて若くは田方郡に屬せしにやと疑ありて決しがたと云りされど足柄縣の註進には上の一説によりて本

郷村鎮座と定めたるに従ふ

阿<sup>ア</sup>米<sup>メ</sup>都<sup>ト</sup>加<sup>カ</sup>多<sup>タ</sup>比<sup>ヒ</sup>咩<sup>ヤ</sup>命<sup>ノミコト</sup>神社

祭神

祭日

社格

所在

今按式社考證に妻浦村三島明神なるべし正中二年の社記に神代の昔三島大神と溝藏姫命と御船にて渡來玉ひ當浦より上らせ玉ふとみえ一座は姫神なるも所由あり村名の妻浦も姫神鎮座の地なるより比賣浦の略と聞ゆとみえ又一説に下小野村鎮座大宮明神ならむ豆志に下小野村門小野に在今稱大宮上下小野川合野三村の總鎮守也村老相傳ふ此神は青野村三島明神の妹也然らば二社ともに必式内なるべし云々とみえ古老の説に門野明神と稱たるも傳へ今に社邊を門野或は門小野と稱へるが神名の加多に近く大宮の稱あるも因ありと云るによりて足柄縣註進には下小野村と定めたれど門野明神又門野などの稱によりて加多比賣に由ありと云るは信がたき心地せらるれば從はず

阿<sup>ア</sup>治<sup>チ</sup>古<sup>コ</sup>神<sup>ノミコト</sup>社 稱大宮明神

祭神 阿治古神

今按三宅記に三島の大神の后神のことを大島に置玉ふ后